

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



合田 直弘

本格的な冬の到来を迎えている欧州では、障害競馬のシーズンが真つ盛りを迎えている。

3月11日にチエルトナムで行われる、ステイブルチエイス2マイル路線の最高峰となるG1クイーンマザーチャンピオンチエイス(芝15F1999Y)約3199m、障害数13へ向けた前売りで、ブックメーカー各社が3.5倍〜3.75倍のオッズを提示し1番人気に推しているイレテイタンブ(騾7、父ジュークボックスジュリー)が、今月のこのコラムの主役だ。

同馬を管理するのは、愛国障害界のレジェンド・ウイリー・マリンス調教師(69歳)だ。01/02年に初めて障害リレーディングのタイトルを獲得。その後6年の空白をはさんだ後、07/08年に自身2度目のタイトルを手にとると、以降はその地位を譲らず、24/25年には19回目のリレーディングに輝いたという、押しも押されぬ伯楽である。のみならず23/24年には、出走機会が限られている英国のランキングでも、リレーディングの首位に立った。愛国を拠点とする調教師が英国でリレーディングの座に輝いたのは、53/54年のヴィンセント・オブライエン以来70年ぶりという快挙だった。マリンス師は24/25年も、英国におけるリレーディングの座を守っている。

日本の皆様には、13年の中山グラン

ドジャンブに管理馬ブラックステアマウンテンを送り込み、単勝26.4倍の8番人気という低評価を覆して見事に優勝を果たした調教師として、ご記憶されておられると思う。

今年11月には、カリフォルニア州デルマーを舞台としたG1BCターフに管理馬エシカルダイヤモンドを送り込み、単勝28.7倍の8番人気というファンの低評価をあざ笑うかのように、そのレース3度目の優勝を狙ったレベルスロマンスに1.1/4馬身差をつけて優勝。エシカルダイヤモンドと言えば、そこまで走った14戦のうち半数の7戦がハードルで、25年のチエルトナムフェスティヴァルではカウンティハンディキャップハードルに出走して4着に入っていた馬である。そういう経歴の馬を、ブリーダーズCにぶつけるだけでも、相当に意表を突いた戦略だが、使うだけではなく勝ってしまったあたり、俗にいう「マリンス・マジック」としか形容のしようがない、歴史的快挙だった。

イレテイタンブはフランス産馬で、生産者の所有馬として祖国でナショナルハントフラットを2戦した後、現在の馬主さんに購買され、21/22年の障害シーズンを前にマリンス厩舎に移籍してきた。このシーズンはハードルを3戦して未勝利に終わった後、22/23年シーズ

ンの初戦となったサーリスのメイドンハードル(芝16F33Y)を制し、通算6戦目で待望の初勝利をあげた。さらにこのシーズン3戦目となったレバースタウンのG1タタソールズアイルランドノーヴィスハードル(芝16F)を制し、G1で重賞初制覇。その後、シーズン最終戦となったパンチエスタウンのG1チャンピオンノーヴィスハードル(芝16F100Y)でも2着に入っている。

翌23/24年シーズンからステイブルチエイスに転身。このシーズンは6戦し、イントリのG1マフレストノーヴィスチエイス(芝19F200Y)など3つのG1を含む4勝をマークし、ステイブルチエイス16〜20Fの路線の前線へと躍り出ることになった。

今季初戦となったのが、11月6日にクロンメルで行われたG2クロンメルオイルチエイス(芝20F171Y)で、これも勝つて今季初勝利。続いて駒を進めたのが、12月6日にサンダウンで行われたG1テイングルクリークチエイス(芝15F99Y)で、これも単勝オッズ1.73倍という破った人気に依って快勝。そのレース3連覇を狙った出走だったジョンボン(騾9)に9馬身差をつける一方的な内容で、G1クイーンマザーチャンピオンチエイスの前売り1番人気の座に浮上している。